

会 議 記 録

次のとおり会議記録を公表します。

会議名	第1回瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョン懇談会
開催日時	平成30年4月25日(水) 13時30分～15時20分
開催場所	高松市役所 11階 職員研修室
議 題	(1)会長・副会長の選任について (2)圏域若者会議(仮称)の設置について (3)その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	嘉門会長、松岡副会長、佐野委員、對馬委員、三井委員、宮本委員、栗委員、笠井委員、吉田委員、桑村委員、竹内委員、糸委員、石田(良)委員、堀口委員、長尾委員
傍聴者	0人 (定員 5人)
報道機関	2人
担当課及び連絡先	政策課(839-2135)

会議経過及び会議結果

会議の概要は、次のとおり

議題(1) 会長・副会長の選任について

瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョン懇談会設置要綱第6条第2項の規定により、委員の互選により会長が選任され、副会長は会長が指名した。

(会長 嘉門雅史 委員、副会長 松岡久美 委員)

また、会議は、原則として公開とすることを決定した。

議題(2) 圏域若者会議(仮称)の設置について

【別添資料により、圏域若者会議(仮称)の概要について事務局から説明】

(会長)

確認だが、今回の設置要綱の改正は、若者会議に限定したものではなく、特定の事項を検討させたい場合などは、部会を設置できるものという認識でよいか。

(事務局)

その認識でよい。今年度は、若い世代の視点で、圏域の活性化や経済のけん引について検討してもらうため、若者会議の設置を考えているが、地域創生など、別のテーマや別の構成で設置する必要があるれば、設置することができる。

会議経過及び会議結果

(委員)

どのような構成を想定しているのか。

(事務局)

現在のところ、学識経験者のほか、産業振興、観光、農林水産業の各分野で活躍している方で、連携中枢都市及び連携市町からの推薦をいただいた方、14名程度で予定している。

(委員)

参加を呼び掛ける若者の範囲だが、20歳以上に限定しなくてもよいのではないか。小さい頃からITに慣れ親しんでいるなどの特長がある、10歳代も含めた若い世代からの意見も取り入れることが、この地域の活性化するには大切になってくると思う。

(委員)

高松市にもU40というものがあるが、実際に参加しているのは、30歳代のみである。18歳以上に投票権が拡大された今、まちに関われるチャンスを与えるという意味でも、10～20歳代に参加してほしい。

(会長)

年齢については、要綱で定まっているものではないので、再検討できる余地があるのではないか。

(事務局)

今回の若者会議については、経済成長のけん引に関する検討をお願いすることから、経済活動を経験しているという視点で20歳以上に絞った事務局案としていた。実際に御参加いただくメンバーは20歳以上の方ばかりとなるかもしれないが、若者に意見を聞きたいということであれば、20歳以上にこだわらないメンバー構成もあって良いと思っている。概要から年齢表記を削除する方向で再検討したい。

(会長)

それでは、若者会議の設置については、参加者の年齢について再検討した事務局案の判断を、私に一任していただいでよろしいか。

(各委員)

了承。

議題(3) その他について

【別添資料により、連携中枢都市圏ビジョン取組事業の変更点、スケジュール、意見書の提出について事務局から説明】

(会長)

1-ア「産学金官民一体となった懇談会の設置・運営等」に若者会議の実施が盛り込まれているが、予算上はそれほどの変化がない。これは会議の実施のみの予算増という認識でよいか。

(事務局)

その認識でよい。

(会長)

K P I に事業数とあり、これは実際に取り組む事業の数ということだと思うが、何か具体的に取組もうとする場合には、経費が必要となる。若者会議で取り組む事業についての予算措置はあるのか。

(事務局)

若者会議はビジョン懇談会内の部会となるため、直接の事業主体とはなれない。

(会長)

若者会議で議論した内容を具体化しようとする際には、何らかの予算が必要だろうと考える。スピード感を重視すると必要なのではないか。

(事務局)

スピード感のある対応は必要と考えているので、実現可能で効果的な方法を検討していく。

(委員)

昭和45年から49年にかけて設置されていた香川県青年開発会議では、現状を知るために、事務局の県がヘリコプターを借り上げて状況把握を行うなどの対応をしていた。若者会議開催のための予算だけでなく、提案が実を結ぶための具体的な支援が必要だと思う。

(委員)

経済活動を実践している20～30歳代という対象の設定に該当する人は、総じて、非常に忙しい。参加者にメリットがない枠組みでは、具体的な成果が出ないように思われる。事務局側には、行政として若者会議に求めるゴールを設定し、その上で行政ができるサポート内容を整理し、若者会議の参加者に示した方がよい。

(委員)

東かがわ市、さぬき市を対象とした「瀬戸内チャリマップ」などは、非常によい実践例であり、栗林公園のパンフレットも、若い方が作成にかなりの部分で携わっていると聞いている。

パンフレットなどは、文化として残る可能性があるもので、こういったものを作る気運を醸成するのも行政の役割ではないか。

(委員)

若者会議は今年度2回の開催予定のようだが、それでは課題を見つけることと、それに対する意見を出し合うだけで終わってしまうのではないか。本来であれば、自身が感じたことについて、自由に意見を出し合っ、議論することで参加者も自分のこととして、真剣に考えられるのだと思う。行政がテーマを決め、議論の結果を具体化するための予算も用意されていないのであれば、少なくとも、議論のテーマに関連する情報は、行政から提供する必要があるのではないか。

(会長)

予算は限定されていても、行政として議論の進行を補助できる情報の提供などは実施いただきたい。現代の若者は、SNSを活用しての事業なども上手であり、アイデア次第で、予算がなくてもできることを生み出すことも期待できるのではないか。それをどう行政が支援するかになってくると思う。

(事務局)

今回の意見を参考に、若者会議が「生きる」会議となるよう実施方法など十分に検討してまいりたい。

(委員)

3-1-1(エ)「移住・交流促進事業」の取組内容紹介(資料4)についての感想だが、平成30年度予算は1億3300万円と掲載されており、首都圏に相談コーナーなどを開設するようだが、インターネットの普及している現在、この予算額であれば、もっと有効な若者に対する移住促進策があるのでないか。

(委員)

首都圏からの移住実践者としての意見になるが、相談コーナーの設置は、Iターンに関しては有効。Uターンであれば、相談できる人がいると思うが、Iターンの場合は相談ができる人がいないため、気軽に相談できるコーナーがあると助かる。就業の場合は、自分で見つけることが多いと思うが、分野によっては有効だと思う。また、子育て世代は、移住について慎重な傾向があるため、コーナーでの対応は有効だろう。

(事務局)

予算額については、相談コーナーのみの額ではなく、各市町における取組の合計額を掲載している。高松市の新規事業として昨年度、首都圏交流会などを実施する中で、気軽に相談できるコーナーの必要性を強く感じたことから、圏域のことを知ってもらうことを設置の目的としている。ネットなども活用するが、目を向けていただく手段を増やしていくことが重要であり、加えて、生活や就職に関する相談にも対応できるものにしていく。

また、効果を高めるために、都内の学生への働きかけということも想定しており、待ちの姿勢ではなく、積極的に実施してまいりたい。

(委員)

相談コーナーの必要性は承知した。コーナーがあることをどう知ってもらうかが重要だ。例えば、全国観光フェアでも、瀬戸内海という(皆が知っている)キーワードを上手に打ち出すことで、集客に効果があることを経験している。

(委員)

圏域全体の経済を活性化するためには、いかに多くの人を移動させて、さまざまな体験をさせるかが大事であり、それにより消費活動が発生する。今回の若者会議は期間が短いため、まずは既存の事業に対して焦点を絞って、若者目線の評論という位置付けもできるのではないか。

(委員)

民泊新法が6月から施行されるが、国外民間サイトが運営する「ホームシェアリングラボ」という、移住者などホームシェアリングに興味のある30人前後が参加し、全員が意見を言い合うという取組がある。これが私の考える若者会議のイメージであり、一つのテーマに絞って、興味のある若者を募るといえるのはどうか。

(委員)

話はそれるかもしれないが、直島町は転勤者が多い。その中で町も支援しながら、様々な取組を実践している方が増えているので、そのような方にも焦点を当ててみてはどうか。

(会長)

様々な提案を聞くと、若者会議に対する期待は大きい。2回の会議で何ができるかという意見もあるが、事業として具体化しつつあるものの情報なども参加者のネットワークの中にはあるかもしれないので、焦点を絞って、若者会議での議論を生かして、取組をより良くするということから始めるようになるのかもしれない。そのための行政の支援内容も含めて、意見書の提出をお願いしたい。

(委員)

若者会議の検討事項が抽象的であるため、もう少し具体的なテーマを定めて、意見を出し合う方が充実する。

(委員)

観光分野のKPIは瀬戸内国際芸術祭開催年が実績として掲載されているため、最終年度の目標が控えめに映るので、もう少し高く修正するか、瀬戸内国際芸術祭の実績を除外した数値の併記などの対応は可能か。

(事務局)

各KPIの目標値については、各市町の総合計画等の目標値との整合性があるため、現時点での変更はできないが、どの事業も目標達成に向けて鋭意取り組み中である。

(副会長)

若者に対する期待、応援があることを非常に強く感じた。限られた時間ではあるが、すぐ成果が出そうなもの、時間はかかるが取り組んだ方がいいものなど、提案の内容によって切り分けが必要と感じた。全く新しいものだけでなく、既存の取組に対する意見が若者会議を通して出てくると、将来的な発展にもつながる。しがらみを簡単に越えることができる若い世代からの意見を、行政がどう生かしていくかということが今回の宿題ということもできる。種まきの前の耕すところが、初年度の若者会議の成果になるのではないか。若者のスピード感を意識しながら、評価する時間幅を見極めて育てていくことが必要となるように思う。

(会長)

2回の若者会議の結果は、懇談会に報告されるということなので、懇談会としても、その結果をどのように、圏域全体の経済成長につなげていくかを考えていきたい。本日の議事は以上とします。